

2024年12月19日

株式会社電通デジタル

**電通デジタル、全社へのAI標準実装を目指し、  
社員のオープンイノベーションを加速する  
全社横断組織「AI Native Twin」組成  
－全ての事業領域にAI活用のミッションを設定、  
より強固なAI体制構築へ－**

株式会社電通デジタル（本社：東京都港区 代表取締役社長執行役員：瀧本 恒 以下、電通デジタル）は、AIを全社に標準実装することを目的に、全ての事業におけるAI活用を促進する横断組織「AI Native Twin（エーアイネイティブツイン）」を組成し、2025年1月より始動します。

電通デジタルでは、2023年4月にAI開発とビッグデータ分析の実績を多く持つデータアーティスト株式会社と合併<sup>※1</sup>し、マーケティングソリューションブランド「∞AI<sup>®</sup>（ムゲンエーアイ）」<sup>※2</sup>の開発など、AIを活用した企業のマーケティング活動の高度化を支援しています。

また、全社員にChatGPTアカウントを付与し<sup>※3</sup>、業務効率化や最先端のAI技術を活用した効果的なソリューション提案力の全社的な底上げを行うとともに、モンゴルに拠点がある電通データアーティストモンゴルとの連携などにより、AIの知見を深めてきました。

昨今の生成AIの登場により、顧客と企業のコミュニケーションが以下のように変化しています。

- ① 顧客へのコミュニケーションが一方通行ではなく、AIチャットとの双方向の「対話」に変化
- ② 顧客にAIチャットとより対話してもらうための「魅力的な顧客体験」の重要性が高まる
- ③ 顧客との対話により、会話データという「リッチなデータ」を獲得し、分析を行う
- ④ このデータを活用して、次のコミュニケーション施策の検討

これら全ての領域に支援体制を持つ電通デジタルでは、AIを活用し、より企業のコミュニケーション施策の支援体制を強化するべく、2025年1月に「CAIO（Chief AI Officer：最高AI責任者）」に就任<sup>※4</sup>する執行役員 山本 覚の指揮のもと「AI Native Twin」を組成します。

「AI Native Twin」では各事業領域に対してAI活用のミッションを課し、各領域および全社横断による事業の深化とともに、工数削減による社員のイノベーション創出を推進します。

電通デジタルでは今後もAIを活用した社員のオープンイノベーションを加速し、社員のパフォーマンスを向上することで企業の事業成長パートナーとしてさらなる成長を目指します。

※1：電通デジタル、データアーティストとの合併を完了（2023年4月3日発表）

<https://www.dentsudigital.co.jp/news/release/management/2023-0403-000083>

※2：∞AI<sup>®</sup>について <https://www.dentsudigital.co.jp/services/AI/mugen-ai>

※3：電通デジタル、全社員がChatGPTを利用開始（2023年5月29日発表）

<https://www.dentsudigital.co.jp/news/release/services/2023-0529-000093>

※4：電通デジタル、AI活用支援および統合サービス提供の強化に向けて「CAIO」「CSO」を新設（2024年12月19日発表）<https://www.dentsudigital.co.jp/news/release/management/2024-1219-000192>

以 上

<電通デジタルについて> <https://www.dentsudigital.co.jp/>

電通デジタルは、国内最大規模の総合デジタルファームです。「人の心を動かし、価値を創造し、世界のあり方を変える。」をパーパスに、生活者に寄り添うクリエイティビティとテクノロジーを統合的に活用することで、あらゆるトランスフォーメーションを実現しています。クライアント企業の事業成長パートナーとして、共に新たな価値を創造することで、経済そして社会の「変革と成長」を目指しています。

**【リリースに関する問い合わせ先】**

株式会社電通デジタル ブランディング&コミュニケーション部 社外コミュニケーショングループ  
北川・宮本 Email : [press@dentsudigital.co.jp](mailto:press@dentsudigital.co.jp)